

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	経済学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 少人数教育を推進するために、研究演習の1ゼミ当たりの人数を現行水準よりも引き下げる。また、大人数講義を複数クラスに分け、1クラスの履修者数を教室定員以内に抑える。	→ 研究演習の定員数。大人数講義科目のクラス数と履修者数。	B	A	A	A	A
2. 学生の研究発表(例. エコノフェスタ)を定期的で開催し、その成果を社会に公表する。	→ 学生主体の研究発表会の開催数とその成果報告数。	A	B	B	B	B
3. 大学院生や研究員をTA(Teaching Assistant : ティーチングアシスタント)、そして学部3・4年生をLA(Learning Assistant : ラーニングアシスタント)とするチューター制度やメンター制度を確立させ、5年後にはTAを10名、LAを20名とした組織にする。	→ チューターやメンターを担当する大学院生・研究員および学部上級生の数。および、1人あたりのチューターやメンターが担当する学生数。	D	D	C	B	B
4. 初年次教育部会を設置し、FD(Faculty Development : ファカルティデベロップメント)の一環として、初年次導入教育におけるカリキュラム、授業運営、教育指導のあり方などを点検・評価し、問題点を改善する。そのことで、KG経済学士力の水準を引き上げる。	→ 改善による教育への効果の初年次教育部会での評価・点検とその公表。および、1年生対象の基礎学力検査の実施とその結果公表。	C	B	B	B	B
5. FD委員会主催の授業改善のための研修会を継続し、授業評価アンケート、教育成果の測定方法、および授業改善方法の適切性などについて点検・評価を行い、問題点を改善する。そのことで、KG経済学士力の水準を引き上げる。	→ 学部FD活動による教育改善への効果の評価・点検とその公表。および、学部上級生(3・4年)の経済学専門能力検査の実施とその結果公表。	C	C	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 少人数によるゼミ教育は教育目標にも掲げられておりに力を入れており、受け入れ人数を20名～最大35名と設定して毎年募集してきた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 研究演習入門については希望者の多くが履修可能となっており、研究演習Ⅰ、研究演習Ⅱと一貫した演習教育が可能となっている。 大人数講義科目については、教務担当副学部長により見直しを行い、その一部について、非常勤教員によりクラスをふたつに分けることになった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 大人数講義科目担当者と教務担当副学部長による意見交換を継続していく。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2009年に開催したエコノフェスタのような研究発表大会は実施していないが、毎年、研究演習担当者はインゼミ大会と称する研究演習によるディベート、研究発表会を実施してきた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か インゼミ大会での研究発表での報告をまとめた報告書を2011年度、2012年度に冊子化して発表した。2013年度はWebのみ掲載した。また、大会の運営はエコゼミ委員会と称する学生有志による委員会によって行われる。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か インゼミ大会の内容見当は継続的に実施するとともに、ゼミ指導員に委ねられている。研究発表の機会を助長する方策を検討する(遠征助成金など)。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「経済と経済学の基礎」におけるチューターとして他大学および本学大学院生を採用することにし、毎週1回、3つのクラスの補講が開講された。また、学部学生をLAとして採用し、1クラス3名配置した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 単位化されていない補講であるが、希望学生による補習授業の場として定着している。また基礎演習クラスにもLAを配置した。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 基礎教育委員会にてこの補講科目の成果や問題点について検討していく。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 初年次教育委員会での検討と、毎年実施している入学者学力調査を基にして、初年次教育や入学前教育の検討に取り組んだ。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 各種入試入学者に対しての入学前教育および入学後のフォローアップ教育の実施を2014年度に向けて策定することができた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2014年度のフォローアップ教育の実施と点検による検討の開始を入試検討委員会と基礎教育委員会の合同チームにて実施する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆

目標5	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 基礎演習担当者会では教育方法の情報交換を継続し、経済基礎科目である経済と経済学の基礎担当者会も実施している。 またこのような活動はFD委員会によって構成員に周知されている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 経済と経済学の基礎担当者会の検討は、補習授業の立ち上げの基となった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か FD委員会主導型による研修会の継続実施。	☆
		その他	☆
備考			☆